

報道関係各位

三菱地所株式会社
三菱地所レジデンス株式会社
三菱地所ホーム株式会社
三菱地所ハウスネット株式会社

バーチャルリアリティ技術を活用した 「没入体験型」営業ツールを住宅売買仲介の営業現場にも拡大 ～新築マンション・注文住宅への導入に加え、三菱地所グループ4社にて住宅事業のVR化をカバー～

三菱地所グループの住宅事業では、これまで住まいの総合窓口「三菱地所のレジデンス ラウンジ」、三菱地所レジデンス、三菱地所ホームにてバーチャルリアリティ（以下「VR」）技術を活用した営業ツールを導入してきましたが、6月1日より住宅売買仲介を担う三菱地所ハウスネットにもサービスを拡大することによって、対象物件が新築マンション・注文住宅から売買仲介物件にまで広がりました。

さらに、三菱地所の日本初のFinTech拠点「FINOLAB(フィノラボ)」へ入居しているナーブ株式会社と協働し、同社の「VR内見システム」および同社作成の専用撮影アプリを活用することで、営業担当者などの当社グループ社員が自ら撮影したVR映像をその場でアプリを通じてアップロード可能となり、より多くの物件を撮影でき、営業に活用しやすくなりました。

「CREWL(クルール)」^{*1}等のVR接客端末を設置している「三菱地所のレジデンス ラウンジ」（東京都千代田区）をはじめ、三菱地所ホームの全てのホームギャラリー・ハウジングギャラリー、三菱地所レジデンス・三菱地所ハウスネットの一部の拠点で、お客様自らの動きに連動して、周囲全方向の画像を見ることができ、あたかも実物の住宅の室内にいるかのような「没入体験型」の「VR内覧」が可能です。また、お客様にQRコードやURLをメールで送付すると、ご自宅でも360度パノラマ映像（視聴機器をお持ちであればVR映像）がパソコンやスマートフォンでご覧いただくことも可能になりました。

※1)ナーブ株式会社のオリジナルVR接客端末名称。

VRを活用することにより、お客様は「三菱地所のレジデンス ラウンジ」等1箇所の拠点にお越しいただければ、各地に点在している営業所やギャラリー全てに足を運ばずとも、1度に複数物件の内覧ができるようになります。ご検討初期の段階でもVRを通してより多くの物件を「体験」していただくことで、希望物件のイメージを明確にいただき、実際に内覧する物件を絞り込めるなど、効率の良い住まい探しができることがお客様のメリットです。当社グループとしても内覧業務を効率化することで、生産性及び顧客満足度の向上とともに、お客様に対して当社グループサービスを幅広く訴求可能であると考えています。

これまで三菱地所レジデンスの新築分譲マンション7物件(首都圏5件、関西圏2件)、三菱地所ホーム全てのホームギャラリーでVR素材活用の実績がありましたが、三菱地所ハウスネットで取り扱っている売買仲介物件^{*2}のVR内覧が可能となり、今後、賃貸・リフォーム物件など他の物件タイプや動画・インテリアパターン・眺望などVR素材のラインアップを拡げることも視野に、お客様への提案力を一層強化していきます。 ※2)三菱地所レジデンスのリノベーション物件等を含み、お客様のご承諾を得た物件



▲「VR内見システム」接客例とVR接客端末「CREWL(クルール)」

<参考>

■VR 営業ツールの概要

- ・三菱地所グループ社員が専用の 360 度カメラとスマートフォンアプリを使用し撮影した VR 映像をその場でアプリを通じてアップロード。
- ・「CREWL(クルール)」等の VR 接客端末を設置している三菱地所グループの住まいの総合窓口「三菱地所のレジデンス ラウンジ」などでは、お客様自らの動きに連動して全方向の画像を見ることができ、あたかも物件実物を見ているかのような「没入体験」が可能。
- ・VR の専用視聴機器が無い場所でも、パソコンやスマートフォン等で 360 度パノラマ映像として見る事が可能。

VR 営業ツールの特徴：

①グループ各社をまたいだコンテンツ共有が可能。

社内で他拠点のコンテンツが見られるだけでなく、グループ各社の全コンテンツを「三菱地所のレジデンス ラウンジ」で見ることができる。

②手軽な操作で、自由度が高い。

撮影アプリを活用することにより、営業担当者自らいつでもどこでも映像をアップロードできる。撮影、コンテンツ管理、接客までひとつの VR プラットフォームで完結し、今後も開発キットを用いて様々なアプリケーションと統合することができる。

③接客効果を高める。

お客様が VR 端末で閲覧している映像を営業担当者のパソコンやタブレット端末でも見ることができ、営業担当者のパソコンやタブレット端末からお客様にコンテンツを案内することもできる。お客様に QR コードや URL をメールで送付すると、ご自宅でも 360 度パノラマ映像（視聴機器をお持ちであれば VR 映像）がパソコンやスマートフォンで見ることができる。

VR内見™ のイメージ



■VR 営業ツール導入のメリット・狙い

①物件実物を見学することが難しいお客様への商品性の訴求が可能。(距離的メリット)

移動時間なく複数物件の内覧を行うことができるほか、海外を含め遠隔地において物件実物を簡単に見学することができない方が検討しやすくなる。

②竣工前の段階でも、商品性をリアルに体感して頂くことが可能。(時間的メリット)

未竣工物件の共用部や専有部の広さ、天井の高さといった商品性を体感できる。

③お客様の効率的な住まい探しが可能となり、営業担当者の生産性も向上。

ご検討初期段階でより多くの物件を内覧していただくことで、イメージの明確化及び実際の内覧物件の絞り込みができる。内覧業務の効率化により、営業担当者の生産性も向上する。

④住まいの総合窓口「三菱地所のレジデンス ラウンジ」の営業拠点としての機能強化。

全国のあらゆる物件タイプの VR 映像を制作し、「三菱地所のレジデンス ラウンジ」に VR 接客端末を設置することで、ワンストップで日本各地の住宅を検討できる環境の整備を目指す。

■VR 接客端末設置施設：

・「三菱地所のレジデンス ラウンジ」

住まいの購入・マンション管理・リフォーム・賃貸・売却など、住まいのあらゆるフェーズにおける豊富な情報とサービスを取り揃え、それらをコンシェルジュがお客様のご要望に応じてご案内するソリューション機能とともに、ライブラリー機能、イベント機能を備えた三菱地所グループの住まいに関する情報発信拠点（2013年4月開設）。



・三菱地所レジデンス「レジデンスギャラリー」

- 「ザ・パークハウス 横浜伊勢町」マンションギャラリー
- 「ザ・レジデンス戸塚」現地販売センター

・三菱地所ホーム「ホームギャラリー」

【東京都】

駒沢ステージ1・2・3 ホームギャラリー、渋谷ホームギャラリー、
瀬田ホームギャラリー、オークラランドホームギャラリー、
浜田山ホームギャラリー、石神井ホームギャラリー、
武蔵野ホームギャラリー

【神奈川県】

平沼橋第1 ホームギャラリー(建替中:2017年10月オープン予定)
平沼橋第2 ホームギャラリー

【埼玉県】

さいたま新都心ホームギャラリー

【千葉県】

幕張ホームギャラリー

【大阪府】

千里ホームギャラリー

【兵庫県】

西宮北口ホームギャラリー

・三菱地所ホーム「ハウジングギャラリー」(設備展示・商談施設)

赤坂ハウジングギャラリー

・三菱地所ハウスネット 営業所

- 五反田営業所
- 神戸営業所

■VR 素材活用物件実績、対象物件：

・分譲マンション

【関西】

「ザ・パークハウス 京都鴨川御所東」

「ザ・パークハウス 中之島タワー」

【首都圏】

「ザ・パークハウス 横浜伊勢町」

「ザ・パークハウス 川崎レジデンス」

「ザ・パークハウス 東戸塚レジデンス」

「ザ・パークハウス 戸塚フロント」

「ザ・レジデンス戸塚」

「ザ・パークハウス 文京白山」

「ザ・パークハウス 碑文谷三丁目」



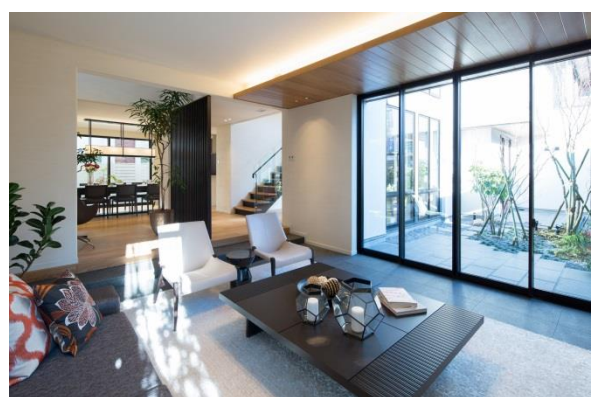
▲「ザ・パークハウス 碑文谷三丁目」モデルルーム写真
Kタイプ (94.31㎡)

・注文住宅

三菱地所ホーム 全ての「ホームギャラリー」



▲駒沢ステージ2 ホームギャラリー



▲武蔵野ホームギャラリー

・売買仲介物件

三菱地所ハウスネット 取り扱い物件*

※三菱地所レジデンスのリノベーション物件などの業者売主物件および原則空き家で売主の承諾を得た個人所有物件が対象

■ナーブ株式会社について

2015年10月に設立し、国内最大級のVRプラットフォームを構築し、VR技術を接客や売買といったビジネスシーンで活用するサービスを展開している。

2016年6月に三菱地所の国内最大規模のビジネス支援施設「Global Business Hub Tokyo(グローバルビジネスハブ東京)」への入居がきっかけとなり、三菱地所グループとの関係が深化。その後事業拡大による人員増員、また不動産techに限らずAI*VRやFinTechVRという新しい分野へのチャレンジにもマッチする日本初のFinTech拠点「FINOLAB(フィノラボ)」へ移転している。

多田社長は、三菱地所グループとの協働について「三菱地所グループは新築・賃貸マンションから注文住宅、売買仲介まで網羅した住宅サービスを提供しているので、三菱地所のレジデンス ラウンジを中心とした住まいの新しい提案と一緒に考えていきたいと思っている。弊社の強みであるスタートアップの機動力を活かして、今後さらに新築マンション販売のVR活用等を追求しながら、スピーディーに新たな価値の提供を実現していきたい。」と述べている。

「Global Business Hub Tokyo」ウェブサイト：<http://www.gbh-tokyo.or.jp/>

「FINOLAB」ウェブサイト：<http://finolab.jp/>